

▼シリーズ「CNCP 設立 10 周年を迎えて」

CNCP10 年の歩みにおける
事業化推進部門の活動の総括NPO 法人シビルサポートネットワーク代表理事
辻田 満

1. はじめに

CNCP の前身組織の建設系 NPO 連絡協議会において3つの主たる分科会がありました。それらは中間支援組織分科会（有岡正樹分科会長）、土木学会連携事業分科会（駒田智久分科会長）、事業試行分科会（辻田満分科会長）です。そして、これらの分科会が後の CNCP 組織の骨格となりました。私が主管した事業試行分科会では組織をプラットフォームとした事業となるべき事業を公募し、その中から ①橋の長寿命化促進事業支援プロジェクト ②古都の無電柱化推進事業 ③地方公共団体における公共インフラ等再編マネジメントの構築 ④がれき処理「Green Hill 構想」を適用した Capacity Building 施策展開の4つのテーマが選定されて試行事業として取り組んで参りました。これらの試行事業の取り組みが CNCP の設立時の事業化推進部門が組織化となり、後の CNCP におけるプラットフォーム事業のコンセプトとなりました。そして、CNCP 設立後は事業化推進部門の担当常務理事に私が任命され、以後 10 年に亘って様々な事業の立ち上げに関わることとなります。

2. シンクタンクチームの誕生

早速、事業化推進部門の中に事業化専従組織としてシンクタンクチームを立ち上げてメンバーを募り、事業化の為の研究会を立ち上げると共に建設分野における社会的課題解決を図る事業、特にソーシャルビジネス（CB）および企業の共有価値の創造（CSV）の顕在化を図る活動を開始しました。更にシンクタンクとしての機能を十分に発揮して社会的事業の発掘と提案を行い、建設企業などとの連携による事業化の研究に取り組みました。また、CNCP をプラットフォームとした受託事業および提案事業を実施する為のルールづくりを行いました。その中から幾つかの取り組みました事業の概要を以下に紹介します。

1) 南房総 CCRC 事業化研究会

本研究会は当初「日本版 CCRC 構想を豊かな自然環境に恵まれている「南房総」地域のリゾート地で実現しようとスタート致しました。バブル時代に造られた多くのリゾート団地では高齢化が進み、住環境に満足していても自動車



無しでは移動に心配が出てきます。そこで、自動運転等の新しいシステムを導入した「まちづくり」によって高齢者の不安を解消する方法を研究しました。アウトドアでの活動を取り組んだり、サテライトオフィスで働いたり、生活を楽しみつつ健康寿命を延ばし、いざとなれば在宅医療・介護サービスを自宅で受けられる、地域包括ケアも推進出来るまちづくりを目指して取り組みました。

2) うなぎ持続可能プロジェクト（SEFI）

“うなぎを守りながら食文化を絶やさない世の中にしたい” 思いから本研究会は立ち上げられました。「ニホンウナギ」は、海から川を上って生息し産卵のために再び海に戻るため、落差のある堰には魚道

を、コンクリートの川底には石倉カゴを、水際には植生など、生息場所の確保が必要です。研究会ではこれらの整備のあり方を検討しました。卵から人工ふ化させたうなぎを親として産卵させ、次の世代の親まで育てる「完全養殖」技術。完全養殖の大量生産が進めばうなぎの絶滅を防ぐとともにうなぎを食べ続けることができます。これらの実現に向けて様々な取り組みを企画提案して参りました。



3) CNCP アワード（市民社会を築く建設大賞）

ソーシャルビジネス（社会的課題の解決を図るための取り組みを持続可能な事業として展開すること）は、CNCP 並びにその会員が取り組むべき事業そのものです。このような事業をそれぞれが展開することで、CNCP とその会員の社会的存在意義が高まり、会の設立趣意書にもある「行政や企業、教育・研究機関、そして地域・市民組織とのパートナーシップを通じて、より良い地域社会の構築を目指す」ことが可能となると考えました。このような認識から、「CNCP アワード」をスタートさせることとなりました。



2016 年よりスタートした CNCP アワードは 2018 年度には CNCP アワードの名称を「市民社会を築く建設大賞 2018」と改めました。建設分野における社会的課題の解決を図る優れた事業、特にソーシャルビジネス（SB）および企業の共通価値創造（CSV）事業を顕在化して称賛し、広く周知させることを目的としました。2016 年よりスタートした「CNCP アワード」において、日本全国から累計 28 件の応募がありました。

4) CIVIL MACHI 事業

シビル・マッチとはインターネット上で業務委託者と業務受託者のマッチングを支援する仕組みの総称です。すでにこの仕組みを利用したビジネスモデルは、クラウドソーシング事業として、我が国では IT 関連の仕事やデザイン関連の仕事を中心に数年程



度の期間で急成長を遂げています。クラウドソーシングとは不特定多数（CROWD）と業務委託（SOURCING）するという意味でネーミングされたものです。この不特定多数を対象とした在宅・テレワーカーというスタイルは今後さらに普及するものと言われています。CNCP が構築したサイトは建設分野において仕事を依頼したい企業が建設系 NPO に発注できるようにする仕組みをマッチングサイトとして構築するものです。

本システムが稼働することによって CNCP として下記の役割を期待し開発に取り組みました。

- ① 専門技術者の経験と技術を活かす場の提供
- ② 交流・自己アピールの場の提供
- ③ 地域課題解決のデータベースの蓄積の場
- ④ 賛助会員企業および法人正会員（NPO）を相互により強く結びつける仕組み

しかしながら、システムが完成して広くオープンしても、残念ながら実績を積むことが出来ず、本システムはやむなくクローズされることとなってしまいました。このことが唯一私にとっての心残りです。

3. 土木と市民社会をつなぐ事業研究会

CNCP は、設立 3 年を機にこれまでの活動を見直し、今後の活動の基本テーマとして「土木と市民社会をつなぐ」が設定されました。事業化推進部門でもこれを受けて、活動の見直しを行い、過去 3 回実施してきたアワード事業と社会的課題解決を図るソーシャルビジネス（SB）や企業の CSV 事業を中心に、「土木と市民社会をつなぐ」ためにどのような事業化を推進するべきかという視点で活動を見直し「土木と市民社会をつなぐ事業研究会」を立ち上げるに至りました。

研究会の活動は社会的課題の解決を図る事業手法、特にソーシャルビジネス（SB）および企業の共通価値の創造（CSV）を学習すると共に、建設分野における社会的課題の解決を図る事業を広く調査研究し、望ましい活動・事業とは何かを明らかにすることを目的としてスタートしました。この研究会はステージⅠとステージⅡの活動として報告書に取りまとめられております。ステージⅡでは様々な議論を重ねる中で「適疎（てきそ）な地域づくり」を社会課題として取り上げ提言（案）を取りまとめました。

参照先：<https://npo-cnnp.org/people/people03/page-1037>



4. おわりに

振り返ってみますと、CNCP の前身組織となる建設系 NPO 連絡協議会から関わり、CNCP 設立後は 10 年に亘り事業化推進部門の担当常務理事として様々な事業に取り組んで参りました。これらの事業にはメンバーとして多くの方々が参加しました。そして、これらの研究会活動は一民間企業のサラリーマンでは決して関わる事が出来ない経験ばかりでありました。それらの活動はいくつものプレスに取り上げられてきました。そして、研究会活動を通じて産学官の枠組みを超えた素晴らしい方々とお知り合いになれたことも、私にとっては大きな宝物となりました。いずれにしてもこれからの建設事業の在り方は、急激な変化は難しいことではありますが、決して現状の延長線上にはないでしょう。私たちの取り組みはこれらの建設事業の将来のパラダイムシフトを見据えたものであり、確実に参考の一助となることでしょう。

最後になりましたが、シンクタンクチームの立ち上げから 10 年間、一貫して私に知恵と情報と勇気をあたえて続けて頂きました野村吉春氏（NPO 法人州都広島を実現する会事務局長）に、心から謝意を表したいと思っております。私の CNCP の 10 年間に亘る全ての活動は野村氏のサポート無しでは成しえるものではありませんでした。